

クリニックでの治療基準

院長

お子さんの熱が長く続いたり、具合が悪くて、心配した経験があるかもしれません。そんな時医師が治療に関してどんなことを考えているかを知っていれば、少しは気持ちが落ち着くはずですよ。

先月号の新聞で診療に対する疑問のメールを頂いたことを紹介しました。内容は、当院で診察を受けた2日後に症状が気になり総合病院を受診し入院となったというものでした。当院での病気や治療に対する考え方を示すために、丁寧にお答えしました。メール(一部削除・変更)を紹介しますので、一緒に考えてみてください。

「御報告ありがとうございました。今回のことで不安を与えてしまって、申し訳ありません。子どもたちの熱や咳の原因は、ほとんどがカゼです。カゼの経過の中で、気管支炎や場合によっては肺炎を併発します。もちろん大人と違い、進行が急ということが特徴です。

通常、咳や鼻水などの症状の場合はかぜ薬のみで様子を見ます。ほとんどはウイルスによるので、普通は抗生物質の投与は行ないません(耐性菌が問題となっています)。発熱などの症状が加われば、状況によって抗生物質を処方します。また、効果は服用してすぐ判定できるものではなく、2~3日は症状に注意して待つことになります。2~3日熱が続いても全身状態(水分、機嫌、元気など)があまり悪くなければ、抗生剤を変更してもう2日程度様子を見ます。但し、全身状態の悪化や心配な症状があればレントゲンや血液検査を行い、診断と重症度の判定を行ないます。水分摂取が不十分な場合、点滴を行なうこともあります。全身状態が比較的良好でも発熱が5日以上続けば、状況を評価するために原則として検査をします。

親御さん達にも様々な思いや心配があるので、治療に関しては一定の基準を作らざるを得ません。咳がひどく、高熱(1日だけ)がでたからといって、すぐに採血やレントゲンということにはなりません。検査ばかりしていれば、逆に検査ばかりしているとクレームがつくことになります。も

う一つは、お子さんに対する影響です。レントゲンでは被爆ということが問題になります。大人と違って採血は、子どもにとって大きなストレスです。そのようなリスクを考えて、一定の基準を作って対応しているのです。今回の経過は、抗生物質の効果がなく、その後の進行が速かったということになるのでしょうか。そこを見抜けなかったことは、反省しています。また連れてくる基準をお話したかと思いますが、十分伝わらなかったのかも知れません。



現在も重症なお子さんがいて、40℃以上の熱が4~5日続き、夜も眠れないほど咳き込み、ゼーゼーがひどく、水分も取れず、食べたものを吐いてぐったりし、3日前から毎日点滴(5日間も連続で通院)に通ってきてやっと改善傾向を示しています。今日になって熱が下がり、入院しないで済んだと親御さんも喜んでます。多くの親御さんは何とか入院しないで済むことを希望しているので、当院ではよほどの重症(特殊な病気)でなければ、なるべく外来治療で完結したいと思っています。

今回のことは、自分の読みが甘かったためでしょう。毎日来ていたら、対応が変わったかもしれません。親御さんの心配は様々です。心配が強ければ、逆に入院を勧めることもあります(あまり重症でなくても)。ここは、親御さんとのコミュニケーションが関係します。心配な親御さんは、症状が改善しなければ遠慮なく連れてくる人が多いようです。「先生の治療で治らないので、何とかしてください」、それが正しい判断だと思います。

もう一つ、病院の入院も様々な基準があります。開業医にかかっている改善があまり思わしくなく、親御さんの心配が強ければ、それだけで入院の基準になることもあります。又病院はベッドを持っているため、空床であれば入院の適応基準が少し低くなることもあるようです。他の先生にかかる時にも、今回のことをしっかり覚えておいてください。

今回のメール、参考にさせていただきます。このような相談窓口を作っているもの、当院の医療への姿勢と御理解ください。ありがとうございました。」

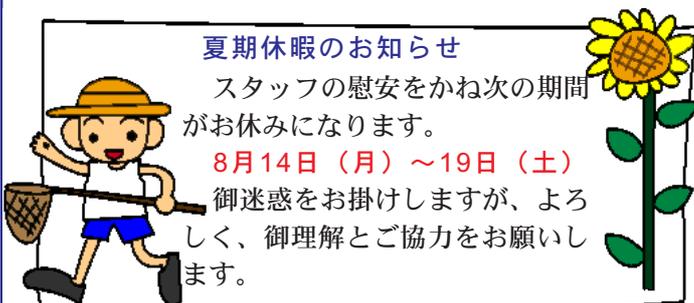
今回の記事で、当院の病気に取り組む姿勢や治療方針について、御理解頂ければと思います。何より大切なことは、コミュニケーションです。遠慮なく、心配を伝えてください。

夏期休暇のお知らせ

スタッフの慰安をかね次の期間がお休みになります。

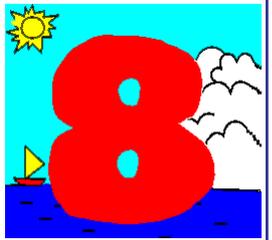
8月14日(月)~19日(土)

御迷惑をお掛けしますが、よろしく、御理解とご協力をお願いします。



読者の広場

先月はメールが比較的少なく9通のみでした。病気も目立たなくなったので、心配も少ない時期なのかも知れません。実家に帰って診察を受けたにもかかわらず、心配でメールを頂いたお馴染み宮城野区の板橋さんからです。突発性発疹症だろうという答えに対する返事です。「ありがとうございます。かわむら先生からのメールで安心しました。なんだか心ほそかったです(>_<)実家の母も今ではすぐに具合悪いんだと言うと「他の病院ではなくかわむら先生とこに行きなさい！」と言われますf^_^;一番信頼できるからということでした。たしかにそうなんですよね(^0^)けど私は未だにかわむら先生と会うとドキドキ？緊張してしまいます(-.-;)先生の偉大さとニュースで取り上げられたりしてるからかな？またお世話になりますねo(^-^)o」。1面記事にも書きましたが問い合わせる窓口があるというのは、いいことだと思います。心配があれば、どんなことでもどうぞ。緊張？、しますか？。別に偉大でも何でもありませんよ。気持ちの持ち方次第ですよ。友だちというわけにいきませんが、メールを書くような気楽でいいですよ。



今月はスペースに余裕があるので、千葉に転居した小池さんからの医療相談と院長の解答を示します。おたふく（流行性耳下腺炎）に関するものです。何か参考になればと思います。

Q：「おはようございます。小池です。私がおたふくに罹ってしまいました。〇〇も◎◎も罹ってないのですが、私からうつるでしょうか？。マスクは有効ですか？。腫れている間はうつりますか？。〇〇は予防接種を受けていますが、◎◎はまだです。6月27日に水痘を受けたので、まだ他の予防接種を受けられないのですが、受けられるようになり、おたふくを発症していなければ受けた方がいいのでしょうか？。下の子を預けることができず、まだ病院に行ってませんが、連れてでも行くべきでしょうか？。いつも質問ばかりですみません。」

A：「メールありがとう。返事遅れてしまいました。おたふくは飛沫感染です。感染力はあまり強くないのですが、家族ではうつると考えた方が良くと思います。腫れている間が感染の可能性があります。お母さんが治って1ヶ月で素慶君が発症しなければ、ワクチン接種を考えてください。症状が強ければ（高熱、腫れ具合、痛み）、受診してみてください。但し、おたふくを治す薬はありませんが。」

予防接種の変更に関するお知らせ

先月も紹介しましたが、6月2日から予防接種法が変わりました。麻しん・風しん混合ワクチンが、次のお子さんを対象に可能になりました。

(1)生後12ヵ月～24ヵ月未満

混合ワクチンだけでなく、単抗原も可能に。

(2)小学校入学前の1年間

第1期接種者以外に、単抗原ワクチン接種者も含む。

経過措置接種(単抗原ワクチン)：仙台市民のみ

・生後24ヶ月～36ヶ月未満で以下に該当する方
先日の案内通り（任意接種）、費用は仙台市負担。

36ヵ月～5才未満は定期接種から外れ、接種は任意接種、費用は自己負担となります。

早めに接種するように心掛けて下さい。詳しくは院内掲示をご覧ください。不明な点はスタッフまで。

水難事故を防止しましょう！！。

埼玉県ふじみ野市のプール事故の詳細は不明ですが、どうも人災のようです。毎年夏になると、水に関わる事故により、多くの子どもが犠牲になります。水の事故から守るためには、こんなことに注意しましょう。

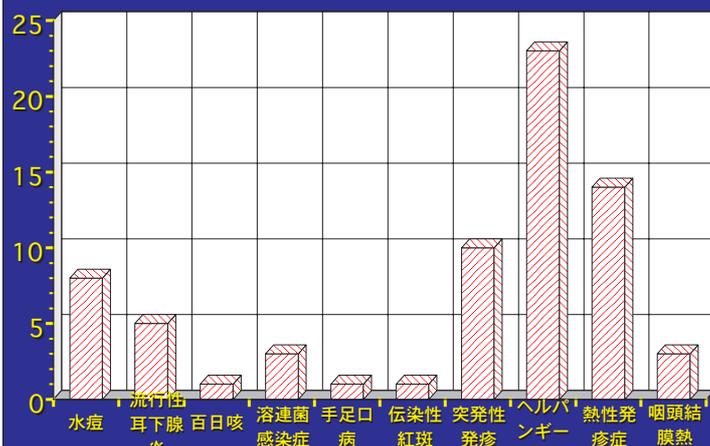
子ども編

- ・危険な場所や子どもだけでの水遊びをさせない
- ・水泳中や水遊び中、子どもから目を離さない
- ・浮き輪を使っているからと安心しない
- ・子どもだけでの水遊びを見かけたら注意をする

大人編

- ・気象状況に注意し、天候が悪化した時は泳がない。
- ・体調の悪いときや、お酒を飲んだ時は泳がない。
- ・準備体操と、定期的な休憩をとる。
- ・体力や水泳の腕などを過信しない
- ・水辺行く時は、ライフジャケット等を着用する。

7月の感染症の集計



水痘は先月の半分以下に減少しました。おたふくは横ばいからわずかに減少傾向です。多くの感染症は夏休みやお盆により、この後も減少しそうです。夏カゼのヘルパンギーナや咽頭結膜熱(プール熱)も増加していますが、先月のTVの予想ほど流行はしていません。この流行には、仙台の比較的低い気温が影響しているのだと思います。

編集後記

最近子ども達に関する事件が後を絶ちません。またまた、子どもが犠牲になった悲しい事件です。思いもよらず吸水口に吸い込まれ、どれほど苦しかったでしょう。罪も無いのに、本当に可哀想な出来事です。亡くなられた戸丸瑛梨香ちゃんの御冥福を祈ると共に、もう二度と事故がくり返されないことを願います。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。
詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を